

広大な空き地に底知れぬ寂しさ

山本隆（市民福祉振興協会 6次参加）

「しあわせの村笑顔とどけ隊」の一員として被災地交流活動に参加しました。私自身は初めてですが、震災以来、第6次の訪問交流です。震災から5年目となります。阪神大震災でもそうだったのですが、被災地で直接生活していない住民にとって、時の経過は記憶を風化させます。



私自身もどれだけ復興が進んでいるだろうと思って参加したのですが、まず仙台空港に到着して、まわりが殆んど空き地で、街の復興にほど遠い風景を目の当たりにしました。また訪問地に向かう道中でも海沿いに広大な空き地があり、ここは本当に復興出来るのだろうかという底知れぬ寂しさを感じました。

最初の訪問地は、仙台市若林区の仮設住宅集会所です。ここではピーク時に150人ほどいた被災者が高齢者を中心に約30人になっていました。たくさんの方が住み慣れた故郷を離れて新しい生活地へ移られています。もちろん希望を持って行かれる人は少なく、またここにおられる方も不安の毎日であろうと推察します。

グループ“わ”チームと一緒に、また我々“ハッピーチーム”に同行頂いたelli+katz+noryさん、株式会社ミスノさん、ドレミちゃん、食育の駿河さんと一緒にひと時ではありますが、精いっぱい楽しい時間を過ごしていただきました。

2日目は、東六郷小学校への訪問です。ここでは全学年で児童が17名になっていました。来年度には閉校となります。我々チームが激励に訪れたはずが、先生と全校児童と一緒に我々を迎えてくれました。児童はしあわせの村にも毎年訪問しており、旧知のメンバーとして楽しい時間を過ごすことが出来ました。

このほか、宮城県牡鹿郡女川町のコミュニティプラザの訪問、また豆腐の製造販売をしている「すまいる作業所」での打合せにより、しあわせの村マルシェでの販売協定を実現するなど経済復興支援も手掛けました。

阪神大震災を経験した神戸市民として、震災の記憶を風化させることなく、引き続き繋がりを持って復興に向けて支援したいと強く感じました。